

地球シミュレータ資源の配分について

地球シミュレータの計算資源の配分については、地球シミュレータ運営基本計画で定められるとおり、毎年、地球シミュレータ計画推進委員会（旧利用計画委員会）にて審議・検討の上、決定されている。

平成14年度以降、地球シミュレータ資源の配分については、計画推進委員会での検討の結果、

- 1．大気・海洋分野
- 2．固体地球分野
- 3．計算機科学分野
- 4．先進創出分野

を対象に年度ごとに資源を配分することとなっている。

また、これとは別に、

5．**戦略的研究枠**（平成16年度まではセンター長裁量枠）を設けている（それぞれの配分は別添参照）。

戦略的研究枠については、これまで地球シミュレータの利用枠の中に20～30％程度が認められている（平成16年度は、IPCC対応の関係で20％に固定）。本枠は、地球シミュレータが世界に類を見ない性能を有しており運用のノウハウが無いことから、全資源の割り当てを固定するのではなく、試行錯誤的・弾力的に運用し、社会への還元を最大限にすることを目的として設けられた。

現在、戦略的研究枠の利用については、以下の考え方にに基づき、行われている。

- 1）地球シミュレータセンターで現在行っている研究に多大な貢献をもたらすもの。
例）極域モデル研究、連結階層シミュレーション研究に結びつくもの
- 2）これまでシミュレーションという手法があまり用いられていない、もしくは、用いることで今後産業界での利用が大きく発展する可能性のあるもの
例）自動車シミュレーションや経済予測
- 3）大規模シミュレーションを行うことで、世界をリード出来ると期待されるもの
例）航空機における空力解析、自動車の構造解析、燃料電池開発
- 4）成果が科学・技術上の発展に貢献し、地球シミュレータセンターの評価を世界的に高めることが期待される国内・海外機関による利用
- 5）その他、戦略的研究枠の利用が妥当と判断されるもの

なお、所定の目的を達成したもの、十分な成果が期待できないものについては、共同研究期間内であっても整理する。

また、戦略的研究枠で行う共同研究等については、計画推進委員会（利用計画委員会）に報告を行っている。

地球シミュレータ計算資源の配分計画

